

平成21年12月22日
筑波大学

筑波大学における海外拠点の設置

1. これまでの経緯

本学では、教育研究活動における一層の国際化を図るため、これまでに海外拠点として、チュニジアに北アフリカ・地中海連携センター（平成18年4月設置）、ウズベキスタンに中央アジア国際連携センター（平成19年6月設置）を設置し、それぞれ北アフリカ、中央アジア地域との連携強化を進めてきました。さらに留学生交流や学術交流を質・量の両面において促進する観点から、中国、欧州及び東南アジア等における海外拠点の設置について、検討を行ってきました。

本学が本年設置したベトナム・ホーチミン市（8月）及び中国・北京市（10月）に引き続きドイツ・ボンに海外拠点を設置しました。

この新規に設置された拠点と設置済の4拠点の5拠点により、積極的に優秀な留学生の確保、学術交流のための情報収集・支援等の事業を行っていくことといたします。

2. 設置理由

欧州に拠点を設置するにあたっては、国・地域ごとに教育政策や学術交流での実情が異なり、将来的には複数の拠点設置が望ましいが、欧州から受け入れた研究者と本学から派遣した教職員は、近年はドイツが一番多く、次いでフランス、英国となっており、先ずはドイツに拠点を設けることとしました。

ベルリンに首都が移転した現在もなお、ボン市には多くの連邦政府機関が残っており、特に連邦教育研究省の中核機能である研究関係は基本的にボン市に残されています。そのため、ボン市にはドイツの学術関係機関が集中し、さらに国連やEUの諸機関も多く所在しており、日本学術振興会もボン研究連絡センターを置くなど、ドイツ及び欧州全体の高等教育や学術の動向に関する情報収集に適した場所です。また、ボン大学はシーボルト以来の日本学研究でも伝統のある大学であり、近年は数学、物理学、経済学等の分野で評価の高い研究が行われ、ドイツ政府からの研究助成も行われており、これら分野での本学との学術交流の発展も期待されます。

ボン市が所在するノルトライン・ウェストファーレン(NRW)州政府、ボン市並びにボン大学は、本学のボン拠点設置に対して期待と協力を表明しており、ボンでの受入体制が整っています。

3. 本学ボン事務所の概要

- (1) 拠点名称 筑波大学ボン事務所
- (2) 設置月日 平成21年12月1日
- (3) 設置場所 ボン市（ドイツ連邦共和国）
ドイツ学術交流会（DAAD）ボン本部北館内

- (4) ボン市に拠点を設置して行う主たる業務
- ① 学術交流のための情報収集・支援
 - ② 優秀な留学生の確保のための業務
 - ③ 本学からの研究者及び派遣留学生の支援

4. ボン市に拠点を設置することにより期待される効果

- (1) ボンやドイツ国内並びに周辺諸国に所在する大学・研究機関・国際機関との学術交流研究の促進。
- (2) ボンに多く所在する国連やEUの諸機関との交流促進を通じて、欧州各国の主要大学・研究機関との学術交流の促進。
- (3) ボンにはドイツ学術交流会（DAAD）本部のほかフンボルト財団本部、マックスプランク研究所が所在しており、これらの機関との連携による欧州をはじめ世界的な研究者ネットワークの構築。
- (4) ボン大学の日本学部には日本研究に関心の高い優秀なドイツ及び近隣欧州諸国の学生がおり、また、近隣のケルン大学にはアジア法研究所があり、東アジアや東南アジア、中央アジア諸国に関心を持つ研究者や学生がおり、これらの環境を活かした学術交流の促進及び優秀な留学生の獲得。
- (5) 東欧圏を含め欧州各国へのアクセスが容易な地の利を活かし、東欧圏を中心に留学希望者へのPR活動を積極的に行うことで、優秀な留学生の獲得。

問合せ先：国際部国際企画課

平成21年12月22日
筑波大学

筑波大学中国校友会設立大会及び本学北京事務所開所式について

12月13日（日）に中国北京市において「筑波大学中国校友会設立大会及び本学北京事務所開所式」を開催しました。

中国校友会は、本学の卒業・修了者、学位取得者、外国人研究員等を会員として本学の留学生同窓会組織として設立しました。

北京事務所は、日本学術振興会（JSPS）北京研究連絡センター内に10月1日に開設し、優秀な留学生確保のためのPR活動、中国の教育研究機関との学術交流のための情報収集・支援等の業務を行っています。

当日の設立大会、開所式には、中国校友会会員を始め、日本学術振興会北京研究連絡センター、北京茗溪会、筑波大学関係者等、約160人が参加しました。

問合せ先：国際部国際企画課